



師走は「師匠が走り回るぐらい忙しい月」と言われています。
でも、12月は「看護師が走り回る忙しい月」でもありますよね。
今年の仕事はてきぱきと片付けて、年末年始の準備をしましょう！！
クリスマス、お正月、楽しい冬休みが待ってるぞ～！！



研修・学会報告



「患者の看護」研修会へ参加して

10月8日 腎センター 八木笑美子

今回の研修ではセルフケア支援の実際と演習を行った。また、自己管理困難の患者の成功事例の分析をグループディスカッションした。効果的な指導(知識と経験を活かした指導)は以下の3つである。①患者が主体的なセルフケア行動の決定が可能な成熟し独立した人間であることをふまえて関わること、②患者の今の気持ちや知っている事などを傾聴すること、③患者に7割話をさせ、指導は3割とし、できているところを伝えたり補足・修正の説明すること、である。つまり患者の気持ちを受け止めて返すこと、否定はせず、肯定し自信に繋げる、マイナス面ではなく、プラス面に目を向ける。これらのことを念頭において、今後の患者指導に役立てて行きたい。

第10回 日本看護医療学会学術集会に参加して

9月21日 西5階 榊原合恵

今回の学術集会のテーマは～看護に求められる現状の分析の力 Physical Logical Technical～で、平成19年度の看護研究「一目瞭然！！これでADLわかるんですシート～サマリーの見直しを行って～」を発表してきた。今回初めて院外での発表であり、多くの方の協力とアドバイスをいただき当日を迎えた。大勢の前で発表することはかなりの緊張でした。自分の言いたいことをいかにパワーポイントを使いながら、言葉で表現する難しさを感じた。ただ読むだけではなく相手の反応を感じながらどのようなパフォーマンスを添えるかで、発表の内容はより素敵なものになるのではないかと今回の発表を終えて感じた。今後の発表・伝える場で、活用していきたい。

第47回 全国自治体病院学会に参加して

10月16日 3階 鈴木春菜

昨年度の看護研究「陰嚢キャッチャーを作成して～目指せ！陰嚢の腫脹の軽減と疼痛緩和～」を発表する機会をいただいた。今学会は看護の他に臨床検査、薬剤、放射線科など9つの分野に分かれ、看護の分野だけで434もの演題発表があった。看護の幅広い分野に渡っての演題発表はとても興味深いものだった。それと同時にその中で自分の研究を発表するというのは本当に緊張した。初めてのポスターセッションでの発表であり、決められた時間の中で自分の伝えたい事を表現する事の難しさを感じた。しかし発表を終えた時には達成感を得る事が出来た。

私達が看護を行う上で経験や知識、疑問を研究する事で調査整理し、新しい考え方や問題点を見出していく看護研究は様々な可能性を秘めていると感じ、多くの学びを得られるものだと思った。今回学会に参加したことはとても貴重な経験となった。

